

聖 霊

第5回 人が信者になるときの聖霊の働き①

□アウトライン

1. この世（不信者）に対する聖霊の働き
2. 信者に対する聖霊の働きの全体像
3. 新生（再生）

-
1. この世（不信者）に対する聖霊の働き（ヨハネ 16：5～11）

十字架にかかる前夜、ゲッセマネの園に向かう道を歩きながら、イエスが11人の使徒たちに語った

ヨハネ 16：5～8 今、わたしは、わたしを遣わされた方のもとに行こうとしています。けれども、あなたがたのうちだれも、『どこに行くのですか』と尋ねません。むしろ、わたしがこれらのことを話したため、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去っていかなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。

その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。

- 世の誤りを明らかになさいます・・・別訳「世に誤りを認めさせます」
 - ここでの聖霊の働きの対象は、「世」である。この場合の「世」とは、神を信じない人々全般を指す。そういう人々の中に、聖霊の働きを受ける人がいる。その人は、福音を知識として理解するが、自分のこととして喜んで受け取るところまでにはいかない。もちろん、その人はまだ信者ではない。
 - 「誤りを認めさせる」・・・ギリシア語では一語、「エレグコウ」＝論破する・論ず（さとす）・誤りを認めさせる。【論破された側は、論理的には反論できないが気持ちとしてはうれしくない】という意味を含むことば。
- 私たちが世の人々に福音を伝える中で、福音を知識レベルでは理解してくれる人がいる。ただし、自分の救いに関係することとして、イエス・キリストを

救い主として受け入れるところまではいかない。このように世の人が福音を知識レベルで理解することも、実は聖霊の働きによるのである。

- 聖霊のこの働きの領域は、3つある。**罪と義とさばき**である。そしてそれぞれの領域で**世の人が何を受け入れられないか**、イエスは、次に**短いことばで指摘する**。歩きながら、である。座って詳しく教える時間はなかった。

9 節 **罪**についてというのは、**彼らがわたしを信じない**からです。

イエスが人類の罪のために十字架にかかって死んだ、墓に葬られた、そして復活したということを、知識としては理解しても、それが**自分の罪のためであったとは受け入れず、イエスを自分の救い主として信じない**。よって、**罪の赦しを受けられない**。

10 節 **義**についてとは、**わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなる**からです。

「わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなる」とは、**イエスの昇天**を指す。神は、イエスを天に上げたことにより、イエスを義人であったと公に認め、示した。そして、イエスを信じる者には、神はイエスの義を転嫁してくださるというのが、神の約束である。しかし、世の人は**その神の約束を受け入れず、イエスはただ、いなくなった、としか見ない**。よって、**イエスの義の転嫁も受けられない**。

11 節 **さばき**についてとは、**この世を支配する者がさばかれた**からです。

「この世を支配する者がさばかれた」とは、サタンに対するさばき、すなわち黙示録20章に預言されている「**大きな白い御座のさばき**」を指す。このさばきによりサタンは火の池に投げ込まれる。「さばかれた」とは、サタンのさばきはもう確定したという意味である。

世の人はサタンの支配下にあるので、イエスを信じないままで、このさばきの時を迎えるなら、その人の行先はサタンと同じ、火の池である。世の人はイエスを信じないから、罪の赦しを受けていないし、イエスの義の転嫁も受けていない。そうすると、将来「大きな白い御座のさばき」で神の前に立つとき、世の人はサタンと同じように火の池に投げ込まれることになる。

世の人は、神が存在するとか、神のさばきがあるとか、知識レベルで理解するところまでは行く。しかし、**自分もさばかれることになるとは受け入れることができない**。よって、**神のさばきから救われることを求めようとししない**。

2. 信者に対する聖霊の働きの全体像 二つの区分、全部で12の働き

- (1) 人が信者になるときの聖霊の働き 5つ（新生・油注ぎ・証印・内住・聖霊のバプテスマ）
- (2) 信者の成長のための聖霊の働き 7つ（満たし・教え・導き・保証・祈りととりなし・聖霊による証言・聖霊の交わり）

3. 新生（再生）

- (1) 新生（再生）の前：霊的に死んでいた。神の怒りを受けるべき者であった。

エペソ 2:1～4 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

- あなたがた・・・異邦人信者
- 空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊・・・サタンを指す。
 - 「空中」・・・サタンとその配下の悪霊たちのいる場所、低い天の霊的領域である。
 - 「権威」・・・天使の階級を指す用語で、高位の階級。サタンも悪霊も元々は天使。天使は階級組織を持つが、その三分の一が神に反逆して墮天使（悪霊）となった。悪霊となっても階級組織を維持しており、サタンは悪霊の階級組織の頂点に立つ支配者である。
 - 「不従順の子ら」・・・イエスをメシアではないと拒否したユダヤ人たち。
 - 「今も働いている」・・・イエスが復活し、昇天し、使徒たちがイエスの証人として証言を続けている今も、ユダヤ人たちがイエスをメシアと認めようとしない。その背景には、サタンが働いているということ。
- 私たち・・・使徒たちをはじめとするユダヤ人信者

(2) 新生（再生）とは、霊的に生き返ること

エペソ 2:4~5 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

テトス 3:5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

(3) 新生（再生）と同時に、新しい性質が信者の中に与えられる。聖書は、新しい性質も「霊」と呼ぶ。信者自身の死んでいて生き返った霊も、引き続き「霊」と呼ぶので、前後の文脈に注意して読むことが必要。また、新しい性質を指す表現はほかにもある。「新しく造られた者」（Ⅱコリ 5:17）、「新しい人」（エペソ 4:24）、「神から生まれた者」（Ⅰヨハネ 3:9）など。

ヨハネ 3:5~6 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

- 水によって生まれる、肉によって生まれる・・・赤ちゃんとして生まれる。親から罪の性質「肉」を遺伝的に引き継いで生まれて来る。
- 御霊によって生まれる・・・聖霊によって新生（再生）する。信者は、霊的に生き返り、同時に新しい性質「霊」を受ける。

(4) 新しい性質は、神から生まれたので、罪を犯すことはできない。信者が罪を犯しても、それによって新しい性質が汚されることもない。

Ⅰヨハネ 3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

I ヨハネ 5:18 神から生まれた者はみな罪を犯さないこと、神から生まれた方がその人を守っておられ、悪い者はその人に触れることができないことを、私たちは知っています。

- 神から生まれた方がその人を守っておられ・・・直訳は「**神から生まれた者は自分自身を守る**」 → 新しい性質は自分自身を守る。その意味は、
【信者が罪を犯しても、信者の内にある新しい性質は汚されない】
- 悪い者はその人に触れることができない・・・サタンは、信者の新しい性質に触れることはできない

- (5) 新生（再生）は聖霊の働きによるが、人の側には信仰が必要である。その信仰の内容については、神は時代ごとに啓示してこられた。今の時代、私たちが信じるべき内容は、イエス・キリストの福音である。

ヨハネ 1:11~13 この方（イエス・キリスト）はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

- ただ、神によって生まれた・・・人の側の信仰に新生（再生）の力があるわけではない。新生（再生）は、聖霊なる神の働きである。人の側の信仰は、聖霊が新生（再生）の働きを開始するためのスイッチのようなものである。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

I コリ 15:3~4 私（使徒パウロ）があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

(6) 新生（再生）は瞬間的に起きる

ヨハネ 1:13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

- 生まれた・・・ギリシア語原文の文法上の時制は「アオリスト」。この時制を使うと、「生まれた」という一語の中に、【一瞬にして生まれ、その時点以降もずっとその状態が続いている】という意味が表現される。

新生したときに、信者は何かの経験をしたり、なんらかの感覚を覚えたりするものか？ 聖書には、そのような記事はない。

信者の中には、信じたときに何かに打たれたような感覚をもったとか、不安やむなしさから一瞬にして解放されたなど、新生に伴って体験したことを証しする信者がいる。他方で、特にそのような経験や感覚はなかったと振り返る信者もいる。

新生そのものは、何かの経験を伴ったり、何らかの感覚を覚えたりするものではない。新生は瞬間的に起きることであり、かつ、霊的領域の出来事だからである。ただし、新生した直後に、その人の内側の魂が揺さぶられたり、心や意志や思考が変えられたり、ということがある。それは、新生したあとの出来事であって、新生そのものではない。

(7) 新生（再生）する前と、新生（再生）した後で、その人はどう変わるのか

- ① 信者は、新しい性質を持っている（Ⅱコリ 5:17、ガラ 6:15、エペソ 2:10、4:24、Ⅰヨハネ 2:29、3:19、4:7、5:1）
- ② 信者は、永遠のいのちを持っている（ヨハネ 3:16）。永遠であるから、救いは取り消されたり、失われたりすることは決してなく、信者自身も捨てることはできない（ヨハネ 10:28～29、ピリピ 1:6）

ヨハネ 10:28～29 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。わたしの父がわたしに与えてくださった者は、**すべてにまさって大切にす**。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。